

令和8年度聴講論文 解答例および出題意図

【解答例】

- 問1 1950年以降も水産缶詰が外貨を稼ぐ重要な輸出品目で、1956年には輸出先国も拡大し、輸出品目も増えた。この頃は総輸出額に占める水産物輸出額の割合も高かったが、高度経済成長期になると国内の需要が拡大し、1971年には水産物輸入が輸出を上回った。1976年以降は日本の総輸出額に占める割合が1%以下となり、1990年代には漁業生産量の減少に伴い輸出も減少していった。(167字)
- 問2 2000年代からは日本の水産物消費量が減少する一方で、海外では水産物の消費量が急増し、国際相場も高騰していった。また、近年の円安傾向も後押しし、輸出が増加した。(77字)
- 問3 これまで市場に存在しなかったみかん風味のブリを開発し、アメリカに売り込むというのはプロダクトアウトの発想である。一方、魚の頭を怖がるアメリカ人が多いことから頭をカットして販売するというのはマーケットインの発想である。(108字)
- 問4 水産物輸出における国や地方自治体の役割として、例えば養殖業が盛んな地域において、輸出先が求める魚のスペックやニーズに沿った養殖魚の開発を担い、養殖業者に稚魚の提供することなどが挙げられる。また、各国でマーケット調査や展示会を実施し、主要輸出先国別に戦略を立案するなど、個別の企業では対応が難しいことに取り組むことが期待される。(163字)

【出題意図】

- 問1 発生している事象を正しく理解し、まとめる力を問うている。
- 問2 講義の内容を正しく理解し、要点を説明する力を問うている。
- 問3 講義で説明された専門用語を理解し、それぞれに該当する事柄を正しく判断する力を問うている。
- 問4 講義で説明された内容を発展的に思案し、具体的な役割を論理的に説明する力を問うている。